

研究課題（テーマ）	デジタルネイティブ世代の育児におけるソーシャルメディアリテラシーと心理社会的健康の関連		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科地域看護学講座	講師	大西 竜太
研究結果の概要			
本研究はデジタルネイティブ（DN）世代の育児におけるソーシャルメディアリテラシーについて、アルゴリズムによる問題現象を念頭においた概念として整理し、心理社会的健康との関連を明らかにすることを目指した。 本研究の基礎調査より主に3つの新たな知見を得た。 1. デジタル社会での情報行動パターンの類型 オンラインの3つの情報源（Web サイト、SNS、子育てアプリ）と対面の3つの情報源（家族、友人、専門家）の使用パターンの類型について解析した結果、8つの類型が析出された。大分類では、オンラインと対面の両方を組み合わせるハイブリッド/マルチチャネル系のタイプ、オンラインまたは対面情報に偏るタイプ、全ての情報源を使用しないタイプが確認された。オンラインと対面の情報を併用することが、良好な心理社会的健康と関係することが示唆された。 2. 父親と母親のソーシャルメディアにおける育児情報リテラシー行動の実態 文献調査をもとにソーシャルメディアでの情報リテラシーの内容を検討し、0・3歳児を持つ父親と母親の育児情報リテラシー行動の実態を調査した。父親はより多角的に情報収集をする傾向が見られ、母親はSNSに特有のフィルターバブル現象（自身の興味や嗜好に偏った情報に囲まれる事象）に陥りやすい可能性が示唆された。 3. 育児でのソーシャルメディア使用と心理的苦痛の関連における孤独感、育児不安のモデレーション効果 育児でのソーシャルメディア使用が親のメンタルヘルスに与える影響は、孤独感や育児不安を抱えている程度によって変化するという仮説の実証研究を行なった。結果、高い育児不安を持つ親は育児でのソーシャルメディアを使用するほど、より強い心理的苦痛を経験していた。一方、孤独感については父親においてのみ、高い孤独感がソーシャルメディアの使用と心理的苦痛の関連を強める結果であった。ソーシャルメディアがメンタルヘルスに与える影響は、父親と母親で質が異なる可能性が示唆された。			
今後の展開			
本研究を基礎研究に、育児でのソーシャルメディアリテラシー尺度の開発を目指す。また、先端テクノロジー（AI やロボティクス）が子育てを変革する未来を見通し、テクノロジーを活用した子育てに必要なリテラシーの概念についても検討する。			